これからの時代の地域デザイン

いかす国土、
まもる国土、
つかう国土。

平成29年3月発行
発行：国土交通省 国土政策局 総合計画課 国土管理企画室
（国土計画HP：http://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/kokudoseisaku.html）
編集デザイン：株式会社ハップ

国土交通省

自分たちのくらす地域について考えてみよう

みなさんが暮らす地域では、住む人が減って管理されていない空き家や荒れた田畑、手入れ不足の森を見かけることが増えていませんか？

また、地震や豪雨などの自然災害への不安が高まったりしていませんか？

私たちの社会はすでに人口減少に入っており、今後も気候変動による将来的な影響など大きな潮流の中で変化し続けていきます。それに伴って、私たちの暮らしやその基礎となる土地利用のあり方も、これまでとは違う形を考えていく必要があります。

開発圧力の低下は空間的な余裕を生み出す面もあり、より豊かで住み続けやすい、本来あるべき地域の土地利用のあり方を考えるには絶好の機会ともいえます。

それにはビジョンを持つことが大事であり、地域の人たちや自治体に加えて様々な人たちが幅広く参加し、話し合いながら決めていくことが重要です。そうした観点で、「地域デザイン」という発想が求められているといえます。

あなたの地域で、何をどのように「いかす・まもる・つかう」のか、「地域デザイン」の観点から考えてみましょう。

どうやって地域の土地利用を維持・管理し子どもや孫に引き継いでいくか？

国土管理

自然環境を守るだけではなく、その恵みをもっとうまく利用することもできるのでは？

自然共生

災害が増えて心配だがもっと安全に住まうにはどうしたらいいのか？

防災・減災

地域の眠っている魅力を引き出し楽しい取組をしたい

今までと違う使い方の工夫などでお金を生み出したい

地域づくり

※平成27年8月策定の国土利用計画（全国計画）では、国土利用の3つの基本方針として、「適切な国土管理を実現する国土利用」、「自然環境と美しい景観等を保全・再生・活用する国土利用」、「安全・安心を実現する国土利用」が挙げられ、国土の適切な管理が地域づくりにつながる効果にも触れています。（国土計画HP：http://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/kokudoseisaku.html）

※「国土」とは、土地だけでなく、水、自然等を含む国土資源や、それらに人が働きかけることによって蓄積した総体を示す概念です。国土利用というと大きなことのように思われますが、国土の「国」を、「都道府県」、「市町村」とスケール感を拡大して捉えていくと、私たち一人一人が生活する「地域」につながっていきます。

CONTENTS

●今、なぜ「地域デザイン」なのか？～これからの土地の使い方を改めて考える理由～ 4

●あなたの地域で参考になる事例「いかす国土、まもる国土、つかう国土」 6

●どんなビジョンが必要なのか？～事例から読み解く～

事例1 愛知県豊田市「防災・減災の効果を意識し100年先を見据えた計画的な森づくり」 8

事例2 三重県多気町「地域住民の手で放置竹林、山林を再生」 10

事例3 北海道長沼町「遊水地を活かしたタンチョウも飛来するまちづくり（舞鶴遊水地）」 12

事例4 野川流域自治体（東京都、世田谷区ほか9市）「野川の湧水保全と流域雨水管理」 14

事例5 静岡県「複合的な施策・選択的国土利用を図る『内陸のフロンティア』を拓く取組」 16

●できるだけ複合的な効果を発揮することを考えよう 18

●地域で土地の使い方を改めて考える～選択的な国土利用～ 20

●対象地のタイプ別事例紹介

森林の場合 森林の様々な機能をうまく引き出す 22
兵庫県丹波市／宮崎県綾町／広島県

農地の場合 新たな視点で地域を元気にする利用や管理 24
三重県多気町／新潟県新発田市／北海道浜中町

河川・沿岸域の場合 水辺環境が本来持つ多様な機能を引き出す 26
北海道石狩市／鳥取県米子市／ 高知県日高村

まちの場合 使い方の工夫で新たな価値を見出す 28
静岡県袋井市／宮城県東松島市

●コラム【参考になる考え方】グリーンインフラ /Eco-DRR 29

●あなたの地域で求められている「地域デザイン」を考える　チェックリスト 30

※本冊子では、「平成28年度 国土管理における複合的な施策と選択的な国土利用の推進に関する検討調査」における事例収集を元に、国土利用計画（全国計画）に示されている「複合的な効果をもたらす施策」や「選択的な国土利用」の推進の考え方の参考になると考えられる特徴的な事例を紹介しています。事例掲載にあたっては関係者に多大なご協力をいただきました。

【写真提供一覧】

豊田市／多気町／北海道開発局札幌開発建設部／長沼町／東京都建設局河川部／世田谷区／一般財団法人世田谷トラストまちづくり／静岡県／NPO法人地域再生研究センター／綾町／一般財団法人広島県森林整備・農業振興財団／立梅用水土地改良区／上三光清流の会／浜中町農業協同組合／NPO法人いしかり海辺ファンクラブ／鳥取県西部総合事務所米子県土整備局／日高村／袋井市／住友林業株式会社

今、なぜ「地域デザイン」なのか？
～これからの土地の使い方を改めて考える理由～

持続可能な農村づくりに取り組む上三光集落の農村風景（新潟県新発田市）

色々なことが起こります

本格的な人口減少社会において、これまでの土地利用や管理を維持できなくなる地域が増加することや、気候変動の影響が災害リスクなどの形で日常生活に及ぶことなどが懸念されています。

すべての土地について、これまでと同じようにコストをかけて利用・管理することは、今後は難しくなることも想定しておく必要性が指摘されています。

一方でチャンスでもあります

人口減少に伴う開発圧力の低下は、余裕を生み出す機会でもあります。持続可能で豊かな暮らしを実現していく視点を持ち、それぞれの地域の状況に応じて、地域間の交流や人の流れの拡大も図るような様々な取組を行うこともできます。これまでとは違う発想で、土地を新たにうまく利用したり、管理を続けていく取組によって、持続可能な地域づくりにつながる例も見られます。

例えば……こんなこと起きていませんか

❶大雨など災害リスクの増大

◎気象予報で「猛烈な雨」と表現される1時間降水量80㎜以上の短時間強雨は、1990年代と比べると約 1.3 倍の 17.9 回 / 年（2007～ 2016年平均）に増加しています。
◎水害や土砂災害だけでなく、地震や津波、渇水、火山災害など様々な災害リスクの増大が懸念されています。

★気象庁「アメダスで見た短時間強雨発生回数の長期変化について」

❷農地の荒廃や森林の手入れ不足

◎農地の荒廃や管理水準の低下が懸念され、森林においても必要な施業が行われない森林が見られます。
◎野生鳥獣被害の要因となったり景観の悪化など様々な課題があります。

❸野生鳥獣被害の深刻化

◎シカ、イノシシ、サル等による野生鳥獣被害は大きな問題で、農作物では年間200億円にのぼる被害が報告されています。
◎全国の8割を超える自治体が野生鳥獣被害の防止計画を策定するなど、全国的にその対応が喫緊の課題となっています。

★農林水産省「全国の野生鳥獣による農作物被害状況について（平成 26 年度）」
★農林水産省「都道府県別被害防止計画作成及び実施隊設置状況（平成 28 年 4 月末時点）」

❹失われてきた自然

◎これまで多くの宅地や農地などの開発を通じ、より経済生産性の高い土地利用への転換が図られてきました。
◎開発や土地の改変は生態系や健全な水循環、景観等にも影響を与え、良好な自然環境や生物の多様性が失われてきた側面があります。

例えば……こんなことをやっている例も

❶水循環を活かし守る

◎都市での雨水の貯留・涵養の推進や、流域の総合的な管理などによる健全な水循環の維持・回復の取組が進んでいます。
◎平成 26 年には水循環基本法も公布され、水循環基本計画に基づく「流域水循環計画」も 17 計画が認められています。

★内閣官房水循環政策本部発表（平成 29 年 3 月現在）

❷荒廃農地の新たな利用

◎荒廃農地の発生防止・解消や効率的な利用に向けた取組が行われています。
◎再生困難な荒廃農地などでは、それぞれの地域の状況に応じて、森林など新たな生産の場としての活用や生きものの生息地としての活用など、新たな用途を見出す例が見られます。

❸バイオマス資源として利用

◎日本の森林蓄積量は平成 24 年には過去最大の 4,901 百万 m³ にのぼり、この20年で 40% 増加しています。
◎再生可能エネルギーに対する政策的な支援も受けて、木質バイオマス等の利用が全国的に広がっており、地域での資源循環の取組が増えています。

★林野庁「森林資源の現況（平成 24 年 3 月 31 日現在）」

❹防災と生態系保全の両立

◎大雨時に洪水被害を軽減する遊水地が、普段は良好な湿地環境として希少動植物の生息・生育地となるなど、防災と生態系保全の両立が図られる例もみられます。
◎国際的にも Eco-DRR という概念で、生態系を活かした防災・減災の取組の重要性が認識されています。（P29 参照）

あなたの地域で参考になる事例「いかす国土、まもる国土、つかう国土」

凡例：森林の事例　河川・沿岸域の事例　農地の事例　まちの事例

スタート あなたの興味のある場所（ご担当）は？	きっかけ どのような課題がありますか？	何をめざすか どのような効果（課題解決）を期待しますか？	何をやるか	取組の事例

※下図は本冊子で紹介している取組事例に関するきっかけや効果の内容を表したものです。

森林

（あなたの地域では）
森林にはどのような課題がありますか？

A　手入れが不足している
B　豊富な森林資源を活用したい

手入れ不足の森林での心配事は何ですか？

A-1　大雨による土砂災害等のリスクを小さくしたい
A-2　森の手入れをする担い手を増やしたい
A-3　安心して暮らせるよう里山林の整備をしたい

どのように活用したいですか？

B-1　豊かな自然に戻していきたい
B-2　森林資源を持続的にうまく利用していきたい

農地

（あなたの地域では）
農業での利用促進以外にどのような課題がありますか？

C　荒廃農地や農業利用が見込まれない土地がある
D　地域資源としての活用法を考えたい

農業上の利用との調整を図った上で、どのように活用・管理したいですか？

C-1　野生鳥獣被害の要因となるのを改善したい
C-2　一部は元の姿（自然）に戻していきたい
D-1　色々な活動を展開して地域を元気にしたい

河川・沿岸域

（あなたの地域では）
河川や沿岸域にはどのような課題がありますか？

E　もっと活用される場にしたい
F　防災・減災力をより高めたり理解を促進したい

どのように活用したいですか？

E-1　地域の経済や社会を元気にしたい
E-2　子どもたちや地域の身近な場として活かしたい
E-3　流域保全と利活用をさらに進めたい

どのような進め方をしたいですか？

F-1　残されてきた自然を再評価して活かしたい
F-2　住民主体で合意形成をしながら進めたい

まち

（あなたの地域では）
新しい利用や効果の発揮を期待する土地はありますか？

G　防災・減災力をより一層高める利用をしたい土地がある
H　これまでの利用は難しいがうまく使いたい土地がある

どのように利用を進めたいですか？

G-1　防災・減災や産業振興などと関連した全体プランを立てたい
G-2　平時も使える防災・減災施設を整備したい
H-1　条件に合わせた新たな土地利用を考えたい

何をやるか ／ 取組の事例

荒れていたのを整える

A-1	過密人工林の適切な間伐	計画的な森づくり（事例1）→P8
A-2	地域の人・団体が森林管理に参加できる仕組みづくり	バイオマス活用と地域集材制度（事例2）→P10
A-3	土砂災害リスクを下げる余裕域づくり	住民主体の将来土地利用の検討（事例6）→P22
C-1	地域資源を知るための集落環境診断	三者協働の野生鳥獣被害対策（事例10）→P25

ポテンシャルを活かし活用・管理する

E-3	水循環を意識した取組	流域の湧水保全・雨水管理（事例4）→P14
G-1	総合的な視点で、防災・減災や自然共生、地域づくりのバランスを考えたプランをつくる	県土利用の計画策定（事例5）→P16
D-1	元々ある地域資源を新たに利活用する	農業用水の多面的活用（事例9）→P24
F-1	あるものを保全・活用しながら普及啓発する	貴重な海岸砂丘系の保全（事例12）→P26
F-2	流域治水の視点でしっかりと合意形成をする	協議会による治水計画の提案（事例13）→P27

新たな使い道を見出す

E-1	生きものをシンボルに、地域づくりに役立てる	タンチョウも飛来するまちづくり（事例3）→P12
B-2	新たな樹種を活用した技術確立	早生樹を植林に活用（事例8）→P23
E-2	環境教育などの場として役立てる	調整池の利活用（事例14）→P27
G-2	地域住民が日常的に親しむ避難施設づくり	「平成の命山」の整備（事例15）→P28
H-1	状況に応じた土地利用の工夫	希望の芝プロジェクト（事例16）→P28

自然に返す（誘導）

B-1	人工林や二次林から照葉樹林に復元する	綾の照葉樹林プロジェクト（事例7）→P23
C-2	牧草栽培に適さない土地に植林などをする	浜中緑の回廊（事例11）→P25